

2011 SUPER GT ROUND 2 FUJI

東日本大震災復興支援大会

この度の東日本大震災により、被害をうけられた皆様へ、心よりお見舞い申し上げます。この未曾有の大震災でお亡くなりなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様へ心よりお見舞い申し上げます。



Text
島村元子
Editor
吉川網恵

Photo
鉄谷康博
加藤智充
中村佳史
近江 勲

2011 AUTOBACS SUPER GT
ROUND 2 FUJI 400Km RACE
4/30-5/1

Super GT 開幕

START

Panasonic Panasonic

SEGA-SAMMY
GROUP

FLAG 5C

TIME

205 LAP

Sammy

AT&T

GT500

GT300

東日本大震災の影響による年間スケジュールが変更になり、2011 AUTOBACS SUPER GTの開幕戦として第2戦富士が開催。震災による自粛等で公式テストも行わず、各チームは白紙状態でレースに臨む結果になり、レース車輛のフロントガラスには大きく「がんばろう！日本」の文字が入り「東日本大震災復興支援大会」としてのイベントとなった。GT500・GT300共に例年同様、多種多様なマシンがエントリーし超ロングストレートを持つ富士を走り抜け予選から決勝まで激しいレース展開を見せつけた。

豪雨の中、 初戦をGT-Rが制す。

デビューイヤーを飾ったHONDA HSV010は今年も絶好調の前評判で開幕。なんと予選を制したのは、DUNLOPからミシュランにスイッチしたDENSO SARD SC430。2位から4位までGT-Rが独占し7位にやっとHSVと言う異例の結果。

決勝はあいにくの雨模様。しかし予選6番手のMOTUL GT-Rは豪雨の中、絶妙なドライビングを見せ18週目にはトップに浮上。本山/トレルイエのベテランコンビでMOTUL GT-Rが09年、菅生第5戦以来となる勝利を飾り、2位から6位間ではSC430レクサスが続いた。



WINNER



GT500

[結果]

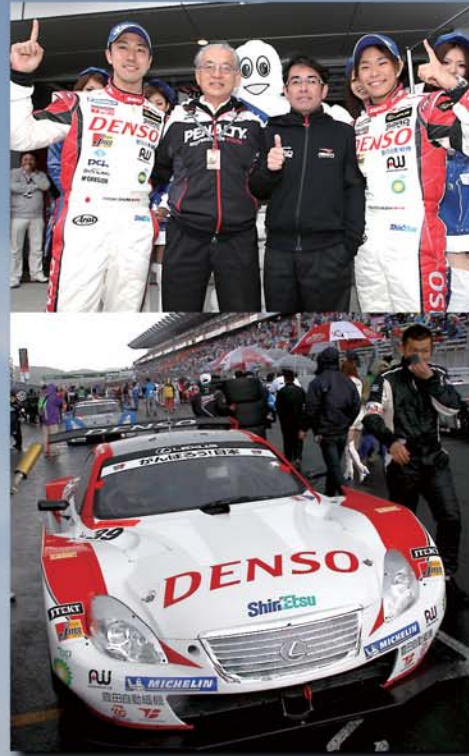
優勝 23	MOTUL AUTECH GT-R	本山 哲	ブノワ・トレルイエ	4位 36	PETRONAS TOM's SC430	アンドレー・ロッチェラ	中島一貴
2位 6	ENEOS SUSTINA SC430	伊藤大輔	大嶋和也	5位 38	ZENT CERUMO SC430	立川祐路	平手晃平
3位 19	WedsSport ADVAN SC430	片岡龍也	荒 聖治	6位 39	DENSO SARD SC430	石浦宏明	井口卓人



予選4番手からの追い上げは見事で、レクサス軍団の最上位。
 今季は若手有望株の大嶋和也が新加入で大いに期待されている。
 チャンピオン奪還のチャンスを静かに狙っている。



今季からGT300から500へステップアップした爆走坂東組。
 ルマンの覇者荒聖治を迎え片岡龍也コンビで開幕戦3位入賞をゲット。



DUNLOPからミシュランに変更する等、チーム
 体制の大改革でいきなりポールポジション獲得
 の偉業を達成。



今季は6年ぶりに国内戦に
 復帰する元F1ドライバーの
 中嶋一貴。表彰台こそ逃が
 したが4位入賞。



日産陣営に新たな話題を提供したのは、MOLA GT-R。昨年の
 GT300のチャンピオン柳田真孝が3年ぶりに500に復帰。
 予選ではトップタイム (Q1) 叩きだし最終予選でも2位は
 見事な結果。



ハンコックポルシェがパーフェクトラン!

今季のGT300はBMW-Z4、ポルシェ、IS350、フェラーリ、ガライヤ、紫電、ランボルギーニ、コルベット、VEMAC、カローラ、アストン、スバル等車種が豊富な上にタイヤメーカーも4社と実に多種多様。さらにスポンサーにアニメキャラクターが加わり痛車ブーム到来さえを感じさせる。

レースはHANKOOK ポルシェをスタートから絶妙のスタートで追上げるJIMGAINERフェラーリを振り切り見事に優勝。ベテラン影山正美と実力の藤井誠暢がハンコックタイヤに初のタイトルへの意気込みを見せた。



GT300

[結果]

優勝 33	HANKOOK PORSCHE	影山正美	藤井誠暢	4位 31	ハセプロMAイワサキaprカローラ	嵯峨宏紀	岩崎祐貴
2位 11	JIMGAINER DIXCEL DUNLOP458	田中哲也	平中克幸	5位 4	初音ミクグッドスマイルBMW	谷口信輝	番場 琢
3位 25	ZENT Porsche RSR	都築晶裕	土屋武士	6位 43	ARTA Garalya	高木真一	松浦孝亮

2nd

今季投入は新型フェラーリ458GT3。ベテラン田中哲也/平中克幸は最後まで後退したが見事な追いで2位をゲット。



onic

Panasonic



ベテラン土屋武士は都築晶裕とのコンビで3位表彰台をゲット。

予選ではトップタイムを叩き出したが、車輛重量が僅かに不足。無念のポールを明け渡す結果となった。

人気チーム初音ミクはトップドライバー谷口信輝を迎えた。さらにアドバイザーに片山右京が就任。

決勝のヘヤピンに3台のマシンが横一列で進入。GT300ならではの醍醐味。



RACING DRIVERS



GT500



GT300

THE FACE
CLOSE-UP

Masataka
YANAGIDA
柳田真孝

Interviewed by M. Shimamura
Photo: Tomomitsu Kato

NISSAN

CARA COME

www.masataka-yanagida.com

KENWOOD
MICHELIN

3年ぶりのGT500参戦、 GT-R & ミシュランタイヤで 旋風を巻き起こす!

昨シーズン、SUPER GTに3台のGT-Rを擁して戦いに挑んだ日産勢は、それぞれ足元を異なるメーカーのタイヤをチョイス。今シーズンは新たな1台としてNo.46 S Road MOLA GT-Rが登場し、4台体制になった。今シーズン、46号車はミシュランタイヤを装着。昨シーズン、タイヤを装着していたワークスチームの23号車から得られた豊富なデータをもとに、さらなる飛躍にひと役買うこととなる。

そしてこの46号車をドライブしているのが柳田真孝だ。2003年にGT300クラスチャンピオンに輝き、05年にはGT500へとステップアップ。S-GTではデビュー以来、日産ひと筋なのだが、昨シーズンはGT300クラスで自身2度目となるシリーズチャンピオンを獲得。満を持してそのチームとともに今年はGT500へ3年ぶりの復帰を果たした。

相棒のR・クインタレリは日本語達者なイタリア人。かつてGT500でミシュランタイヤの開発を担当し、優勝経験もある。柳田にとっては、勝手知ったるチーム、そして経験豊富なパートナーにも恵まれた形で今シーズンを戦うことは、願ってもない環境を手に入れたも同然のこと。

それだけに、自身が懇願するGT500での優勝は是が非でも今シーズン中に実現したいところだ。

迎えた第2戦富士では、天候を味方につけて予選2位を獲得。強豪を押さえ、新しいチームの存在感をしっかりとアピールした。しかしながら、決勝は逆に天候に左右され、スタート時のタイヤチョイスが裏目に出てしまう。

すぐさま対処し、改めて戦列で奮闘を続けたが、時すでに遅し。潜在能力をアピールするには至らず、10位でフィニッシュ。ポイント獲得は果たせたが、悔しさの残る戦いになった。

とはいえ、富士の戦いでチームとしての総合力を再確認できたからには、もう初優勝の日もそう遠くないはずだ。

【ドライバープロフィール】

1979年6月4日、東京生まれ。
“Zの柳田”と呼ばれた日産名ドライバーの柳田春人氏を父に持つサラブレッドでもある。カート参戦を経てフランスに渡って武者修行の経験もある。S-GTでは2003、10年の300クラス王者。

